

講義名	中小商業論			授業形態	
担当教員	向山 雅夫	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

「中小商業が流通において果たす役割」について理解することが本講義のテーマである。

人々の目は華やかな大規模小売業に向きがちであるが、実は中小小売商業は独自の世界を作っており、その存在は極めて重要である。また中小小売商業から大規模小売商業への成長の可能性もある。商業の世界は奥深いことに気づいてもらう。

到達目標

- 以下の点について能力を高めること。
1. 流通の仕組みについて理解する
 2. 中小商業の存在意義を知る
 3. データが意味するものを読み取る
 4. 現実から情報を読み取る力を養う

提出課題

現地取材型の調査レポートを、中間レポートとして実施する
 グループ研究のプレゼンテーションを実施する
 副読本を1冊指定し、用意した設問に回答する形式のレポートを課す（教科書販売あるいは書店にて副読本を購入する必要がある）

以上が本講義の、「本来の」提出課題であるが、本年度はコロナ禍のため実施できない課題が存在する可能性がある。結論として、 と は実施しないかもしれない（2022年2月1日現在では予測不能）。その場合、それに代わって講義テーマごとに、理解度確認レポートを実施する（毎回2000字以上）。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

理解度確認レポートについては、回答上のポイントを後日配布する。
 副読本レポートについては、講義中のディスカッションを通じて回答する。

評価の基準

副読本レポート、理解度確認レポート、講義中の発言の程度、の各得点をもとに評価する。配点については、初回講義で告知する。また、受講者との双方のやり取りを取り入れた講義を実施するので、それに貢献した受講者には高い評価が与えられる。詳しい仕組みは、講義初回に詳細に説明する。

このシラバスは、コロナの影響大である理由から、オンラインでの講義実施を想定して書かれている。完全対面での実施の場合には、の実施回避の可能性があり、その場合には評価基準は改訂される。

履修にあたっての注意・助言他

本講義は他の講義とは異なった形式で実施されるので、必ず以下の注意事項を詳細に読んでから、履修すること！！
 本講義を履修する学生は、15回全部出席しなければならないし、ただ毎週座っているだけでは単位取得できない
 履修可能人数を50名に限定する
 各学生の氏名を書いたスームプレートを毎回着用し、SAが学生の出席度をチェックする（学生の氏名と顔を教員が把握した状況下で講義する）
 受講生には、自主的に学外の商店街を見学に行ってもらおう
 ママ水の電源を切ってもらおう

本講義では、登壇することはできないし、内職もできないし、講義中ずっとスマホをいじることできないし、私語もできない。また講義を適当に欠席することもできない。講義形式としては、ゼミ・スタイルを採用するが、この場合の意味は、「適当に出席していい単位が取れる」といういい加減なゼミスタイルを意味していないことに留意されたい。一方で、少人数で本当に専攻で学びたい、しかも他の講義にはない方法で！と思う学生には、最高の講義になるだろう。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

参考文献
 ・渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫、『21世紀中小企業論（第3版）』、有斐閣アルマ、2013年
 ・加藤司・石原武政（編著）、『地域商業の競争構造』、中央経済社、2009年
 ・副読本：江上剛、『家電の神様』、講談社文庫、¥740

授業計画

回数	授業 計
第1回	9月30日 講義の進め方
第2回	10月7日 中小商業の基礎理論（1）
第3回	10月14日 理解度確認レポート
第4回	10月21日 中小商業の基礎理論（2）
第5回	10月28日 理解度確認レポート
第6回	11月4日 地域コミュニティと中小商業について
第7回	11月11日 理解度確認レポート
第8回	11月18日 副読本レポート：日本の家電流通システムの過去と現在
第9回	11月25日 副読本を巡るディスカッション
第10回	12月2日 まちづくりと中小商業について
第11回	12月9日 理解度確認レポート
第12回	12月16日 高齢者と中小商業（買物弱者問題）について
第13回	12月23日 理解度確認レポート
第14回	1月6日 個店の魅力・専門性について
第15回	1月13日 理解度確認レポート

なお上記計画は後期開始時までに変更される可能性がある。すなわちコロナ無視可能な事態になれば、理解度確認レポートの回数が減少し、代わってグループワークが大幅に導入されることになる。最終的な計画は、後期開始時に提示する。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> O：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：本講義の内容に関連する参考文献を副読本として各自で自由に読破し、講義内容の理解を容易にする努力をしてほしい。毎週2時間を要する。
 復習：数回実施するレポート課題に取り組むことで、講義内容をより深く理解してもらいたい。毎週1時間を要する。
 レポートのための調査・情報収集は、講義時間外に作成することになるだろう。それに要する時間は、受講生自身のやる気に依存する。ハイレベルを目指すのであれば、かなりの時間を要することは疑いない。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

中小商業の構造を知るために商業統計などのデータを利用して、その数値の理解を構造理解に結び付けることを狙いとしている。これによって、流通の世界における中小商業の位置づけ、その変化、その意味が理解できる。また、講義で取り上げる4大トピックスは、現代日本が抱える課題でもある（たとえば高齢者問題やまちづくり）。これらの点を理解することはコース固有のIPそのものであり、学生が就職先を考慮する際の、選択肢の拡大にもつながることが大いに期待される。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ディスカッション・レポート発表などを通じて、毎週の講義はすべて完全双方向授業であり、垂れ流し型の講義は行わない。ただし緊急事態宣言などの発出や大学の方針から判断して、授業計画が一時的に変更になる可能性があることに注意してほしい。

実務経験の有無及び活用

備考

講義は、他の講義と比較して、多くの点で異なった様式で実施される。ただ出席して座っているだけでは単位取得は不可能である。狙いは、学びたい学生に真剣に講義に取り組みってもらうためである。よって、出席する学生には正しい「学びの姿勢」を強く求める。

なお、現時点で（2022.2.1）コロナ感染の広がりが過去最大規模で発生している。まん延防止措置が発出されており、医療破壊が現実のものとなっている。したがって、開講時、および開講後にもこのような事態が継続あるいは発生した場合には、リスクを低減し、命を守るために、講義形式などが一時的に変更になる可能性があることに留意されたい。本来本講義が狙うような対面実施可能な場合には、ディスカッションやグループワークが大幅に増加し、欠席できない厳しい、しがたになる講義となるであろう。履修登録前に、必ずこのシラバスをチェックすべきである。

備考

備考